

H27地域協働研究（地域提案型・前期）

RN-07「動物公園から発信する市民や地域との協働による都市形成と市民活力の向上」

課題提案者：盛岡市動物公園

研究代表者：総合政策学部 倉原宗孝

研究チーム員：辻本恒徳、川村弘樹（盛岡市動物公園）、長澤幸多、藤根卓夫（盛岡市公園みどり課）

<要 旨>

盛岡市動物公園は平成元年開園から多くの市民県民はじめ県内外の観光客から親しまれてきた。一方で、市の厳しい財政状況のなか、動物公園の運営費などの財政的負担が問題となっている。本年度は、前年度に取り組んだ研究活動の成果をさらに発展させ、動物公園のハード・ソフトの検討と共に、「街に出る動物園」を一つのテーマに市民・関係者各主体と検討を重ねた。またその間、国の支援事業に採択されるなどよい意味での新しい動きも生まれてきた。それに連動して盛岡市内にPPP・PFIなど官民連携の事業を触発する効果も見られるようになってきた。これらの状況を睨みながら、今年度は、動物園をはじめとする全国の情報を収集・検討、市民各主体との新たなアクションの検討を重ねた。

1 研究の概要（背景・目的等）

盛岡市動物公園の開園以来の経緯と現状を踏まえ、昨年度は動物公園の再活性化に向けて各資源を活かした検討を各種情報収集・分析、また市民関係者との検討、ワークショップを重ねてきた（本学地域協働研究：盛岡市動物公園再活性化事業にかかる外部資源の有効活用）。今年度はそこでの成果も踏まえながら、動物公園のハード・ソフトの情報収集・検討と共に、前年度に描かれた「街に出る動物園」のテーマのもと、その実現に向けて市民・各主体と検討を重ねていった。本研究では、こうした盛岡市内外に動物公園の意味・實際を広げながら動物公園の再活性化を狙うものである。

2 研究の内容（方法・経過等）

一つは前年度に引き続き先進的な事例の情報収集を重ねた（特に今年度は商業ベースでもどん欲な活動・運営をしている点を注視した）。また、今後の動物園の運営に向けて市民各主体が協働する体制作りを狙いつつ、「街に出る動物園」のテーマを実現するための検討を重ねた。

なお、研究期間においてよい意味での大きな変化があり研究展開にも影響を与えた。国土交通省の「先導的官民連携支援事業」において盛岡動物公園の再生を目指した「盛岡市動物公園の官民連携による再活性化事業調査」が採択されたことがある。これは財政的に厳しい公園整備を検討する上で大きな糧となった。また結果的にPPP・PFI など官民連携の手法を模索する盛岡市において、動物公園が一つの有効なモデルとなり得るため行政内部の各セクションとの連携を促進する作用も見られた。こうした経緯も踏まえて、以下、本年度の研究活動を報告する。

3 全国関連事例の情報収集

前年度に続き動物園に関する全国事例の視察・情報収集を進めた。昨年度の研究から西日本に有効な対象が多いこと、また公共施設としてだけでなく今後の動物園運営においては娯楽提供の要素を積極的に取り込んでいく必要性などから情報を収集していった。その中で特に、天王寺動

物園（大阪市）、福岡市動物園（福岡市）等は示唆が大きい。盛岡市とは都市規模が異なるが、いずれも都市部に存在し、その中で特に娯楽要素を取り込むことに力を入れている。その中で、来園者は楽しみながら生態に触れ、また園の経営にも効果を上げているようだ。



写真：天王寺動物園／動物園に向かうまでのアクセスも楽しく分かりやすい工夫が多い(左)。園周辺の高層ビルと動物のコントラストも面白い(右)。



写真：福岡市動物園／一般車道を跨ぐように園内が配置されており、傾斜地の利用と共に工夫がある。都市部の立地を活かす設計が見られる(左)。入園者の通路もアスレチック風に設え(右)。



立地条件の巧みな工夫、SNS等を利用した情報発信、餌やり体験など各要素の有料化、グッズ創作、等、盛岡市動物公園の運営を考える上でも多くの示唆があった（動物園運営のあり方として賛否は議論の余地があると思うが）。

4 国の支援事業も含めた動き

先に触れたように今回、国交省の支援事業採択など新しい動きが生まれ、平行して研究活動を展開した。ここには各分野の企業等も模索・参画し、様々なアイデア提供と検討が現在重ねられている。細部については機密事項などの点から

現段階で詳しく記せないが、従来の公益ベースの運営から、企業参画による運営に厳しい財政状況乗り越える一つの活路が見出される可能性が出てきた。またその中で、企業側にとって、動物園など公益施設は非常に興味を持っていること、こうした企業のノウハウと公益事業を融合していく意義や可能性などが研究活動でも見えてきたことは収穫である。

また、動物園をはじめ公共施設運営に企業要素を融合していくことは盛岡市全体としてもあまり経験が無いことのようにである。今後は企業のノウハウ、ネットワーク等も巧みに公共施設運営に取り込んでいく必要性があるが、PPP・PFIなど本動物園での経験が盛岡市の他領域への示唆となり得るようであり、行政各セクションの興味・関心も出てきている。そのことが翻って、動物園の今後の運営に向けて各分野を横断する総合的な体制作りに向かえたらと考える。

5 市民・各主体が協働する検討作業

前年度の研究活動で育成されてきた動物園の整備・運営に向けて市民・各主体が協働し合う場が、今年度も引き続き展開された。この間、先の支援事業や企業連携が模索されていたが、今年度はそれらも含めた経緯・現状を市民・各メンバーに報告し、その上で今後の展開を検討し合った。



写真：市民参加の検討会／前年度のワークショップ形式に対して、今年度は現状説明や展開方法の検討を主にセミナー方式で進められた。現状報告では、行政担当者のこれまでの苦勞も提示されると共に今後への期待が共有された。

今年度において特徴の一つは、これまでの参加者層に加えて、行政、企業など新しい主体が議論に参加してきたことがある。また動物園に隣接する各施設との連携体制も模索され始めた。その中で企業ノウハウも導入したより現実的な動物園の運営検討が展開した。

一方で市民はじめ動物愛好者達の自由な発想・考えも提示・共有された。こうした市民・行政・企業など各主体がそれぞれの立場から緩やかに協働し合う関係・場の醸成が生まれてきていることが動物園運営と共に広く盛岡の今後のまちづくりを睨む上で非常に有益だと考える。

検討では動物園への期待など多様な立場から様々な声があった（動物園はどんな場所）癒しの場、好きな場所、学生にとって身近な場に、教育の場、遊具施設充実して子どもに良い…（使い方、整備方針）背後の森が特徴、広域的に活用しては、ティズニーランドみたいに、教育の場に、夜やキャンプに、動物以外の魅力もある…（協働関係）関係者以外の人達が心強い、外の声をもっと活かして、他とのコラボ、計画後も市民参加を、マスコミ活用…（感想・想い）興味なかったが行ってみて残したいと思った、好きじゃなかったがすごいと思った、全国から家族を呼んで盛岡へ…

こうした検討会の延長として、また今年度のテーマの一つである「街に出る動物園」の実践に向けた議論も展開し

た。ここでは商店街関係者などが積極的に参加し、動物園、商店街の各関係者をはじめより実践に向けた、また盛岡らしいアイデア・意見交換がされた。



写真：商店街関係者と動物園関係者の検討会これまで接点が無かったそれぞれだが、実際に意見交換してみると非常に好意的で、ユニーク・建設的な意見・アイデアが繰り出された。こうした場の仕掛けは他分野でも必要・有効になるだろう。

＜動物園関係者・商店街、市民・他の議論（2016年3月29日）＞

（動物園側からの提案・質問）

連れて行ける動物種（ウサギ・モルモット・ヒヨコ・アオダイショウ）
アイデア（パネルに写真、リーフレット・ちらしのほり、着ぐるみ、剥製や骨展示、工作、販売、etc

（商店街・市民からの反応・アドバイス）

商店街は歓迎、地域の祭りと合わせたら、空間・設備の説明・提供、日程調整、もつとお金儲けしてよい、etc

これらの経験を振り返ると、接点があれば本来有効に機能し合う諸要素が地域の中にあることに気づかされる。例えば、動物園側からは街中に出向きたいが現地の意向・体制が分からない、一方、街中（商店街）側からは動物園のそうした意向があるなら是非望みたいといった関係である。先に記した民間企業と動物園（公共施設）の間にも同様である。各分野・主体の垣根を低くした協働の回路が出来たことは大きい。

6 今後の展開

研究期間後になるが、「街に出る動物園」のコンセプトとアイデアは、早速本年5月のゴールデンウィークに肴町商店街を舞台にして実施された。動物達の写真やゲートは子ども達はじめ商店街来客者にも好評だったようだ。また同様の企画は、他の商店街や施設・空間も活用して今後も夏期などにさらに充実して実施予定である。

また、動物園再活性化という研究主題において、同時に本年度の取り組みの大きな点として、国の支援事業や各企業・シンクタンクとの共同作業が大きい。これについて水面下の動きもあり、現段階で詳細な報告は避けるが、引き続き各機関との調整も図り具体の効果的な取り組みに向かっていく予定である。それらの経緯・効果・課題についても機会を待ってあらためて考察しまとめていきたい。

さらに研究活動においても含まれることになったPFI（プライベート・ファイナンシャル・イニシアティブ）、PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）については、盛岡市にとって、また多分野にとっても参考になると思われる。本動物園での経験を一つのモデルとなるように実践し検証したい。

＜謝辞＞ 昨年度に引き続き極めて多くの皆さまにお世話になっている。特に市民の皆さま、今回は商店街関係者の皆さま、さらに各企業の皆さまの協力が大きい。深く感謝したい。